

# 第1学年 総合的な学習の時間（防災学習）指導案

令和元年11月27日（水）

学習者 1年1組（10名）

指導者 寺嶋 陽平

## 1. 単元名 『自然と災害～命を守る方法を考えよう～』

### 2. 単元について

近年、我が国は2016年の熊本の地震をはじめとする、北海道胆信東部地震など多くの地震による被害を目の当たりにしてきた。2011年3月11日に発生した東日本大震災はM9.0という、想定をはるかに超える地震とそれに伴った大津波による未曾有の被害をもたらし、多くの人命を奪うこととなった。大分県は「南海地震」「東南海地震」等が、今後30年間の間に70～80%の確率で起こることが予想されており、それに伴う津波等から自らの命を守るだけでなく、地域に暮らす人たちとともに命を守る取り組みが重要視されてきた。本校は豊後水道に面したリアス式海岸沿いに位置し、美しい山々など豊かな自然に囲まれている。様々な自然の恩恵を受けているが、生徒の居住区の多くは海拔10m以下という土地にあり、津波などの自然災害に襲われる危険性も高い。このような地域に住んでいる生徒にとって、自分の住んでいる地域と密着した内容を調べたり避難行動を考えたりする防災学習は、自分や家族の命を守っていくうえでとても重要なことである。

事前に行った防災教育にかかるアンケートでは、下のような結果になった。

災害（地震、津波など）を怖いと感じますか？	10/10人
今住んでいる地域は津波に対して安全だと感じますか？	0/10人
災害に対して、家庭で備えをしていますか？	4/10人
家族や身近な人と、災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めていますか？	3/10人

災害に対して恐怖を抱いている生徒が多いことがわかるが、実際に地震が起こった時の備えに関しては十分ではない状況である。本校でも安全教育として、避難訓練等を通し、主に火災、地震と津波から身を守るための避難行動について指導してきた。校舎の屋上は1次避難所にも指定されているが、東日本大震災の経験から、さらに高い場所への避難にも取り組んできた。しかし、それはあくまでも学校に生徒たちがいる時を想定したもので、様々な状況を想定したのではなく、状況に即した行動をとらなければならないということは学習されてきてはいなかった。

このような現状を受けて本単元では、まず防災意識アンケートや東日本大震災に関する調べ学習を通して、防災に関する知識を身につけ、関心を高めさせる。ふれあいPTAにおいて防災グッズ工作や講演会を行うことで、家庭での防災意識を高める。そのような活動を通して身につけた知識を活用し、日常の様々な場面で地震が起こった時の避難行動を、現地のフィールドワークや調べ学習を通して班で考えさせる。現地のフィールドワークは班活動で行う。ここでの班は、自分の生活により密着させるため、住んでいる地域が近い生徒で編成する。また、班の考えを発表させ共有し、改善点を考えることで、自分の命を守る手段を知り、実際に災害が起こった場面でも自分で考え行動する力を身につけさせたい。さらに、自分たちの研究結果を、文化発表会などを通して他の学年や地域の人々と共有することで、自分たちだけでなく地域全体で防災意識を高めていこうという態度を育てたい。

### 3. 単元計画（20時間）

単元	主題名	時数	活動内容
1	自分たちの防災意識はどのくらい高いだろうか？	1	防災意識アンケート
2	自然災害について考えよう。	3	ふれあいPTA（講演、防災グッズ工作）
3	実際の災害から、必要な備えや心構えを知ろう。	3	東日本大震災についての調べ学習
4	日常の様々な場面での避難行動を考えよう。	4	実地調査、
5	自分たちの調べた内容をまとめよう。	4	調べた内容の分析・整理、発表の練習
6	学校のなかまや地域の方々に紹介しよう。	1	文化発表会での発表
7	実際に地震が起こった時の、命を守るための行動を考えよう。	2	実際の場面での命を守るための行動を考える。
8	自分たちにできることは何だろうか？	2	全活動のふりかえり

### 4. 評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
評価の観点	自分たちの住んでいる町の防災について関心を持ち、必要な備えをしようとしている。	調べてきたことを基にして、実際に災害が起きた時、どのように行動するか考え、仲間に伝えている。	地域の人々が互いに支えあうことが、命を守ることにつながると理解している。
評価方法	活動中の態度、ワークシート	発表内容 ワークシート	ワークシート

